

このたびは、弊社の墜落制止用器具（ハーネス型安全帯）をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
本製品は、労働安全衛生法第42条の規定に基づく「墜落制止用器具の規格」に準拠して製造したものです。
ご使用前には必ずこの取扱説明書をよくお読み頂き、本製品の装着方法・使用方法等についてご理解の上ご使用ください。
また胸ベルト・ランヤード（別売）については、それぞれに付属の取扱説明書に従ってご使用ください。
なお、間違った装着や使用方法によっては死亡事故につながる可能性がありますので、警告・危険・注意の各項目は特によくご理解頂いた上でご使用ください。この取扱説明書は大切に保管し、万一紛失された時は当社へご請求ください。

1. 用途

⚠ 注意

安全にお使いいただくためにお守りください。

本製品は、高所作業者の墜落制止以外の用途には絶対に使用しないでください。
U字吊り・宙吊りなど体重をかける作業には使用できません。
・高所作業を行う際に弊社製ランヤード（別売）を取り付けて、またはブロックリール等の墜落防止装置を連結し、墜落等の災害防止に使用します。

2. 使用上の注意事項

⚠ 危険

誤った使い方をすると墜落等の恐れがありますので絶対やめてください。

①胸ベルト・ランヤード（別売）については、それぞれの取扱説明書に従ってご使用ください。
②ご使用前には必ず「3. 日常の点検と廃棄」にしたがって点検し、異状がないか確認してください。
③ランヤードまたはブロックリール等の墜落防止装置は、背中のD環に、確実に取り付けてください。
それ以外の個所に取り付けた場合は墜落時にベルトや連結部分が破損し、墜落を阻止できない場合があります。
④胸ベルト（別売）を組み合わせて装着してください。（胸ベルト型墜落制止用器具との同時使用でも可）
⑤それぞれのハーネスに取り付けできるランヤードは、「フルハーネス型」または「フルハーネス型【胸ベルト型兼用】」の表示のあるショックアブソーバ付ランヤードです。
これら以外のもの、または他社製のランヤードは取り付けはいけません。
⑥小型フック付ランヤードを取り付けるときは、小型フックの開閉部が外に向くように取り付けてください。
⑦ランヤードのフックは、できるだけ高い位置に取り付けてください。
⑧ハーネス型安全帯は背中のランヤード取り付け点でぶら下がるため、腰でぶら下がる胸ベルト型安全帯と違って墜落時に足先が到達する距離が長くなります。
必ず実際に作業する箇所の下に、ショックアブソーバに記載された「落下距離」以上の空間があることを確認してご使用ください。
⑨本来の性能を発揮できなくなる場合がありますので、ご自分での修理・改造は絶対にしないでください。
⑩2丁掛け仕様でそれぞれにショックアブソーバの付いた2本のランヤードを使用している場合、2本のフックを同時に掛けている状態で墜落すると、通常より高い衝撃荷重がかかることがありますので、2本のランヤードのフックを同時掛けで使用する場合には、1個のショックアブソーバに2本のランヤードがついたタイプをご使用ください。

3. 日常の点検と廃棄

⚠ 警告

誤った使い方をすると、墜落等の恐れがありますのでやめてください。

・胸ベルト・ランヤード（別売）については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
・毎回使用前後に各項目を点検し、一つでも該当する項目があるものは直ちに使用を中止してください。
・各項目に該当しない場合でも経年劣化による強度低下が発生しますので、使用開始から2年を目安として新品と交換してください。（使用開始時には、製品のラベルに「使用開始年月」を必ず記入してください）
・墜落等によって一度でも大きな荷重が加わったものは、外観に異状がなくても再使用しないでください。

点検箇所	点検項目
各ベルト	●耳部または巾の内側に2mm以上の切損・焼損がないか。 ●薬品やペンキ等の付着によって溶けたり、硬くなっている部分がないか。 ●著しく磨耗している部分はないか。 ●コンクリート等の異物が付着していないか。
縫糸	●縫目が1ヶ所以上切れていないか。
金具類	●変形やサビの発生している箇所はないか。 ●樹脂コーティングが磨耗または剥離し、金属表面が露出していないか。 ●深さ1mm以上の傷はないか。
その他	●変形や破損等によって本来の機能を失っていないか。

4. 構造と各部の名称（形状は一例 左右対称の部品名は省略）

③PHN 型

④PHN 型

①肩ベルト ②胸ベルト ③胸ベルト（別売） ④腿ベルト ⑤背ベルト ⑥前ベルト ⑦連結調節環 ⑧胸バックル ⑨D環 ⑩尻ベルト ⑪胸ベルト固定具

5. 装着方法

⚠ 警告

誤った使い方をすると、墜落等の恐れがありますのでやめてください。

各ベルトを装着するときは必ずベルトにねじれやゆるみがないか確認しながら装着してください。ねじれたり、ゆるんだまま装着し墜落した場合には、本来の性能を発揮できない場合があります。また、各部の連結調節環が正しく連結されているか確認してください。間違った連結方法で墜落した場合には、連結部が外れたりベルトがゆるむ場合があります。

《ハーネスの装着》 ●3PHN・4PHN 型（形状は一例）

①胸ベルト・胸ベルト（別売）のバックルを取り外し、D環を背中側にして肩ベルトに腕を通してください。

②胸ベルトのバックルを連結し、前ベルトの両端が作業服の胸ポケット中心くらいになるように胸ベルトの長さを調節してください。

③腿ベルトは、その位置が股下になるように前ベルトの連結調節環で長さを調節した後、腿ベルトの連結調節環で連結してください。

④腿ベルトは腿にフィットするようにベルトの長さを調節してください。

⑤胸ベルト（別売）は腰骨の位置になるよう前ベルトの連結調節環で長さを調節した後、正しい手順でバックルを装着してください。

⑥最後に各ベルトにねじれやゆるんでいる部分がないか、また各連結部分は正しく確実に連結されているか確認してください。

《連結調節環の連結・調節方法》

《連結調節環の連結方法》

調節環 連結環

調節環を連結環の裏から表へ通して連結してください。

銀色部分がこちら側

連結後は、調節環の銀色部分が連結環のベルト取付け側（録目側）になっていることを確認してください。

《連結調節環のベルト長さ調節方法》

長くする時

連結調節環を指で起こし、内側のベルトを引張ってください。
※ベルトの長さを長くしたとき、外側のベルト長さが5cmより短くならないように調節してください。

短くする時

連結調節環を指で起こし、外側のベルトを引張ってください。

《胸ベルト（別売）のバックル使用方法》

●スライド式

①バックル表側の矢印1の孔から胸ベルトを通し、しっかり締め付けてください。

②次にバックル表側の矢印2の孔に胸ベルトを通し、最後にベルト止めに通してください。

●ワンタッチ式

装着する時

短くする 長くする

①胸ベルトの長さは装着前に調節してください。

取り外す時

①ロックプレートはバックル本体内に押し込んでください。

②そのまま、上下レバーを内側に押しながらトングを抜き取ってください。

《胸ベルト（別売）の装着方法》（形状は一例 左右対称の部品名は省略）

●3PHN・3PHNW

①前面右側の前ベルトと胸ベルト固定具Aの間に胸ベルトを通してください。

②ハーネス本体を後面から見て、背ベルトと尻ベルトの連結部のベルトの間に胸ベルトを通してください。

③残った胸ベルト固定具に胸ベルトを通してください。最後にねじれている部分がないか確認してください。

●3PHN・3PHNW 型

①前面右側の前ベルトと胸ベルト固定具Aの間に胸ベルトを通してください。

②ハーネス本体を後面から見て、背ベルトと尻ベルトの連結部のベルトの間に胸ベルトを通してください。

③残った胸ベルト固定具に胸ベルトを通してください。最後にねじれている部分がないか確認してください。

●4PHN・4PHNW 型

「3PHN 型」の手順①・③と同時に装着してください。（前後2ヵ所ずつ計4ヵ所）

《ももベルトワンタッチバックル（注文別装備）の使用方法》

《装着するとき》

バックル本体にトングを「カチッ」という音がするまでさし込み、上下のツメが同じ角度になっていることを確認してください。

《取り外すとき》

ツメを上下同時に押しながらトングを抜き取ってください。

《長さの調節》

トング側のベルトをいずれかの方向に送って調節してください。

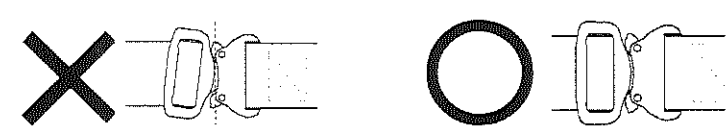
スライドバー トング バックル本体

※注意

調節後のベルトの折り返し長さが5cm以下にならないこと

※ご注意ください

バックルとトングの状態が下図のXのようにになっている（ツメの角度が違う・トングが斜めになっている）と、連結の強度が低くなりバックルが外れる場合がありますので、装着したときはもちろん、使用中にも時々確認してください。



点検と廃棄

警告

誤った使い方をすると、墜落等の恐れがありますのでやめてください。

・毎回使用前後に各項目を点検し、一つでも該当する項目があるものは直ちに使用を中止してください。
・墜落等によって一度でも大きな荷重が加わったものは、外観に異状がなくても再使用しないでください。

点検項目

●変形している箇所はないか

●リベットのかしめ部にガタや変形はないか・・・①

●深さ1mm以上の傷はないか・・・②

●わずかでも亀裂はないか・・・②

●トングとベルトの接合部が磨耗し、ベルトがゆるまないか・・・③

●スライドバーの動きが悪く、ベルトがゆるまないか・・・④

●バックルが正しく結合できるか・・・⑤

●ツメが正常に作動するか・・・⑥

●全体に腐食していないか

●可動部等に拭き取れない塗料などの付着がないか

②

②

④

⑥

①

②

⑥

③

⑥

⑤

落下距離の確認

警告

誤った使い方をすると、墜落等の恐れがありますのでやめてください。

・下図の内容をご確認の上、作業箇所ごとに確認してからご使用ください。

作業中

墜落後ランヤードが緊張し、ショックアブソーバが作動する状態

落下が停止した状態

作業床(作業箇所)

a:フック取り付け高さ(標準値 85cm)
b:D環の高さ(標準値 145cm)
c:ランヤード長さ
d:ショックアブソーバ、胴ベルト、ランヤードの伸び
A:自由落下距離(ショックアブソーバに記載)
(ランヤードが伸びきってショックアブソーバが作動する落下距離)
B:作業床からの落下距離(ショックアブソーバに記載)

※必ず実際に作業する箇所の下に「落下距離」以上の空間があることを確認してから、ご使用ください。

6. お客様相談窓口
この製品についてご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。

販売元：ジェフコム株式会社
〒579-8014 東大阪市中石切町3-13-16
TEL 072-9886-5900
FAX 072-9886-6852

製造元：ポリマーギヤ株式会社

5

6